アニメーションを取り入れた映像作品の活用と課題について - 「私たちの暮らしと土木」シリーズを例にして -

(財)全国建設研修センター 正会員 榊山 清人

1. 背景及び目的

(財)全国建設研修センターでは、主に小・中学生向きに「土木の絵本」(全5巻)を発行し、その後絵本を執筆した緒方英樹が、3本の原案・脚本を担当し、虫プロとアニメと実写による教育映像「私たちの暮らしと土木」シリーズ(2001)を制作した。「土木の絵本」1～3巻が、虫プロとの連携で教育用ビデオ(表-1)として製作されると、「総合的な学習の時間」などの教育現場、企業や行政の研修などで活用され、現在に至っている。

さらに、「土木の絵本」4巻目・「近代土木の夜明け」、5巻目「海をわたり夢をかなえた土木技術者たち」は、大成建設によりドキュメンタリー映像化された。そして、絵本5巻目の中の八田與一をテーマとしたアニメーション映画が、緒方英樹企画により、「パッテンライ!!」が制作され、全国の映画館やホールで順次上映され、鑑賞者は小学校低学年から高齢層まで多岐にわたり、土木界にとっては、一般市民の土木理解につながる有効な作品となっている。

本論文では、(財)全国建設研修センターが企画し、土木学会土木技術映像委員会のイブニングシアターで上映された2作品(水とたたかった戦国の武将たち、おやとい外国人とよばれた人たち)を取り上げ、これから土木技術者を育てる裾野を広げるためにアニメーションを取り入れた映像の活用と課題について考察を行うものである。

表-1 虫プロダクションが制作に関係している映像作品(土木学会選定映像)

作品名	企画	上映時間	制作年
九頭竜川と少年	九頭竜川水系治水百周年実行委員会	30分	1998年3月
水とたたかった戦国武将たち - 「信玄堤」のお話し -	(財)全国建設 研修センター	20分	2001年10月
おやとい外国人とよばれた人たち - 日本で最初に鉄道を走らせた - 「モレル」のおはなし -	(財)全国建設 研修センター	20分	2001年10月
人をたすけ国をつくったお坊さんたち - 農民のために命をかけた - 「行基」のおはなし -	(財)全国建設研修センター	20分	2001年10月
明日をつくった男 - 田辺朔郎と琵琶湖疎水 -	虫プロダクション(株)	86分	2003年3月
民衆のために生きた土木技術者たち	大成建設株式会社	65分	2005年5月
パッテンライ!!	緒方英樹	90分	2008年10月

2. 2作品の感想(アンケート結果より)

土木学会土木映像委員会では、定例上映会としてイブニングシアターを上映している。上映後にweb上でアンケート調査を実施している。その中に、作品の感想も記述する欄が設けられている。企画の主旨から技術的内容については乏しい点もあるが、ここでは、主な感想(上記の主旨から技術的内容は除く)についていくつか紹介する。

キーワード アニメーション, 土木の絵本, 私たちの暮らしと土木, 総合的な学習の時間

連絡先 〒100-0014 東京都千代田区永田町 1-11-30 (財)全国建設研修センター TEL 03-3581-3408

(1) 水とたたかった戦国の武将たち - 「信玄堤」のおはなし - 第41回イブニングシアター (平成20年1月30日実施)

- ・非常に良い作品で小学校での教育に役立てていただければよいと思います。
- ・子供はまだ3歳ですが、あと5年くらいしたら見せたい映画でした。
- ・昔の人の知恵と行動力に感心しました。子供達に見せたい映画でした。
- ・子供にもよくわかる映像です。20年前に現場を見ているので、余計に良く理解できました。
- ・内容を易しくして、土木以外の人々にPRできるように工夫されていて良い。小中高の生徒に見せたい作品ですね。
- ・子供達が見ても面白い映像である。もっと広報をしてみたいはかがでしょうか？
- ・わかり易い編集でした。小中高の学生を含めて多くの方に見てほしい。
- ・子供達へのPR作品としては良いと思う。教育テレビ等で放映されるようにされたら如何でしょうか。
- ・子供向けにこういった歴史的、土木工事を見せるのは土木のイメージが変わるのではないかと思う。
- ・戦国時代から洪水などの水災害に対する取組みを初めて知りました。歴史の見方がまた変わりました。
- ・戦国武将が土木面でも大きな仕事を成し遂げたということを知りました。今後、街を見る目が変わるかも。等

(2) おやとい外国人とよばれた人たち - 日本で最初に鉄道を走らせた「モレル」のおはなし -

第44回イブニングシアター (平成20年8月27日実施)

- ・名は知っていたが、わずか1年余りで世を去っていたとは知らなかった。
- ・お雇い外国人は知識としてはあったが、日本の近代化した大きな貢献したことを改めて認識させられた。
- ・モレルのことは知らなかった。多くの人に知ってほしい。
- ・エドモンド・モレルについて初めて知りました。明治の土木文化について学ぶ良い機会でした。
- ・わたしは鉄道を最初に日本に作った人の名前が「モレル」ということを初めて知りました。モレルさんはすごい努力で日本に鉄道を作ろうと思ったことにびっくりしました。
- ・今は発展途上国の「お雇い外国人」として日本の技術者がこのように活躍していると期待している。
- ・子供たちにわかり易い映画であり、この人たちの偉業を後世に残すのは良いことだと思う。
- ・子供だけでなく大人も十分参考になる映画でした。
- ・子供たちに見せてあげたい。
- ・技師の人生と鉄道の歴史の一部がアニメ化されており子供でも楽しめる「世界昔話」のようです。等

3. アニメーションによる教育効果及び今後の課題

昔から良いアニメは子供から大人まで観賞でき、親と子で会話できたものである。土木を素材としたアニメは小学校の頃から興味を持てば、将来土木技術者を目指す可能性もあり、裾野を広げるために非常に有効な手段といえる。「土木の絵本」は、実際に小学校の総合学習や社会科、理科などに活用されている。ビデオでもおそらくその一環として活用されていることは想像できる。しかし、小・中学校の教職員が必ずしも土木系の学部を卒業しているとは限らない。今回の2作品は目的が、小・中学校の授業「総合的な学習の時間」を念頭に置いているため、20分という時間におさめられている。他のアニメーション作品、例えば「パッテンライ!!」のように90分となると、子供達に、いつ、どこで観賞させるかの問題も生じる。つまり、いくら素材があっても実際に手に取り、使用されなければ効果が発揮されない。アンケートにもあるように、映像をみれば感動を覚え、子供達に見せたいという意見が数多い。また、戦国武将の名前を知っていても、土木事業を行っていたことを知る人達は少ない。アニメーションによる映像をいかにPRし、一般の人達にアピールしていくことが、今後の重要な課題になる。

参考文献

- ・(財)全国建設研修センターホームページ：<http://www.jctc.jp/about/dobokuvideo>